

備陽史探訪

NO.12

発行
備陽史探訪の会

初夏の号

発行所
福山市西深津町
1863-2
神谷和孝方

五十八年上半期回顧
田口義之日記抜書！

田口義之

昭和五十八年一月十五日。午後
神谷会長宅に集合。奥さんの手前
でお茶を飲みながら、新年の抱負
を語り合う。

山城湯殿に於て第三回歴史談話会
を催す。講師は平井隆夫氏、題は
「歴史と伝説」。参加二十五名。山城
誌第二巻一号発刊。

同月二十三日(日) 天晴。一月例
会。七森美人氏の案内で、岡山県
総社市奥板の「鬼ノ城」を見学。参加

者十一名で、鬼ノ城の性格をめぐ
て議論百出。
二月十三日。午後二時より湯殿に
於て、第四回歴史談話会を催す。講
師は藤井高一郎氏、題は「備南国人衆
の動向」。又講演の前に栗田英夫氏(会
員が、古代山城の研究発表を行う。
参加三十四名。

同月二十日(日)曇後晴。二月例会。
栗田英夫氏の案内で、府中市本山町
の古代山城「常城」を見学。寒風にさら
され、雪に足を取られながら山中を
彷徨する。成果は少なかったが、山
上で飲む「コーヒ」は格別であった。

参加十二人。
三月六日。午後二時より、湯殿に
於て第五回歴史談話会を催す。講師

(2) 備陽史探訪 12号

は佐藤一夫氏。題は吉備の中の備人。

後。備南の古墳文化を吉備の中のと
として捉えたのは、同氏が初めて
ではなかつた。参加二十七人。

三月二十一日(日)雨後曇。三月
例会。種本実氏の案内で尾道へ。

雨の中、古寺をめぐり正午、浄土
寺着。財間八郎氏のお話しを聞き、
やと昼食。三時半、現地で解散。

不思議にも解散と同時に青空が
かる。参加三十七人。

四月三日(日)晴。四月例会。武
鳥種一氏の案内で、神石町の天王

山古墳、高光城跡等を見学。初め
てのマイク口バス旅行で気分は上

上、お昼に武鳥さん差入れのビ
ルもあり、素晴らしき一日だった。

参加三十八人。

同月二十四日。午後二時より、
月見橋に於て、第六回歴史談話会

を催す。講師は松本房治氏、題は
福山城の建築。お話しの後、伏見
橋の内部を見学する。参加二十七

五月五日(子供の日)晴後曇。親と子

の古墳めぐり。何度も予備踏査を重
ね、又会合を持つた上での決行。失

敗するはずがない。と思いつつも、
ちよと降り不安が頭をよぎる。百二

十六人もの参加者を、いかにして安
全に連れ帰るか、又満足感を持つて

いたたくか、それが問題であつた。
大成功、会長以下一致協力の勝利だ。

説明者は佐藤一夫氏にお願いした。
同月八日(日)朝十時より青年の家

で、会員総会準備会議。佐藤一夫、
東田英夫両氏の録音質問に、掘者、

ちと疲れたぞ。
六月十二日(日)。午後一時より湯

殿に於いて会員総会。会則改正案と
役員人事に就いての討議と採決を行

う。続いて午後二時より第七回歴史
談話会。講師は森本繁氏、題は「幕末

維新の福山藩」。参加二十八人。
同月二十六日(日)晴。六月例会。
山口哲晶氏の講師で、本郷町の史跡

を探討する。50人乗りの大型バスを使い、午前中に古墳四基を見、昼食は海拔176mの新高山城の頂上でとった。参加は三才の女の子も含め、四十七人。

管領田口伊豆守平朝臣義之謹誌。



矢掛本陣と吉備郡真備町

七月例会の案内

阿部厚子

福山から旧山陽道を東に行くと、神田、高屋、七日市、矢掛、そして真備町へと続く。矢掛の本陣は

当時の姿をほぼ保っている、全国でも稀な例である。次に尋ねる真備町は、奈良時代前期に遺唐使を務めた吉備真備公ゆかりの地にす。この地にも、様々の史跡があります。和銅元年に亡くなった、真備の祖母の骨蔵器が、東三成で見られ、その石函は今も残ります。又真備公が晩年、その上で琴を弾いて都を忍んだと伝えられる弾琴岩は小田川の川辺にぽつんとあります。真備町の中心地箭田にある吉備寺、ここには奈良時代前期の層塔の心柱の礎石があり、任時を偲はせます。又真備の墳墓もここにありす。箭田大塚は、盛土の一部を失なっているもの、今は竹林に覆われ、その巨大な姿は見る人を圧倒します。古墳時代後期の築造と考えられ、玄室の奥壁には幅三m、横四二mもの

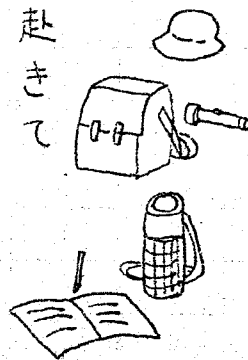
巨大な石を使っています。玄室は普段は扉が閉ざされていますが、当日は開けて載く予定です。古墳部会の方々に、説明の補足や御意見を戴けたら、と思っております。町の西側にある山城、猿掛城址は、毛利元就の四男元清が、城主穂井田氏を継ぎ、穂井田元清として18から33の年まで居住しました。小田川と、それに沿った山陽道を見下ろすように存在し、麓からも郭の段差が解ります。

遠くからでもその所在がわかります。農織産業の神として、毎年三月のお祭には、福山、尾道からも多くの人が参詣したと言います。堂尻寺には、鎌倉末期の巨大な宝篋印塔が在り、今も台座には、正和三年十月十三日建立との銘文が読み取れます。その他町の北方の山には、岩壁に彫られた毘沙門像があります。室

断後期の作と言われ、極めて危険な岩壁の表面にあります。見る価値は充分にあるのですが、歩いて上らなければなりませんので、暑い時期の今例会では割愛するつもりです。以上、道案内の存事を書いてしまいましたが、当日は私も講師としてよしも、会の一員として勉強する、そんな立場で臨みたいと思えます。

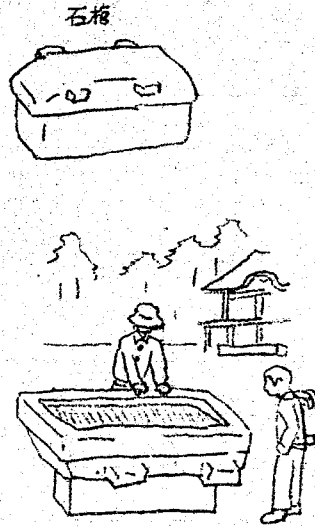
沼田川流域に赴きて

七森義人



今にも降りそうなきがだんく晴れて、バスは南方神社へ着く。ここには石棺の蓋が、神社の浄水を入れ、鉢に使われており、その水も汚れていた。又石棺の側板の一枚を、拝殿に上がる台石としても使用している。この神社は古墳を壊して建てた

る。しかし元々は、古墳を祭る為
 の祠であり、それが大きくなつて
 此様になつたと思われ。しかし
 古墳が壊されては本末転倒であり
 葬られていた人も浮かばれまい。



貞丸古墳でも、一号墳は石棺の
 蓋を失ない、二号墳では石棺も無
 くなり、その一部が仏像の台石に
 使用されている。

室内に行つた御年代古墳では、石
 室内に灯火が在り、内部が見やす
 く助かる。この古墳では石室の中
 に二つの石棺があり、周りに仕切り
 したと思われよう。特徴を示し

ている。

次に梅木平に向かう。梅木平古墳
 は崖のすぐ上にある。今にも崩れて
 しまひそうを感じがする。何らかの
 補強を講じないと、近い将来崖崩れ
 で下の家共々古墳は崩壊してしま
 うのではなからうか。ここの石室は
 きな物で、玄室の高さは4mに達す
 る。中は広く暗い為、御年代のよう
 な照明設備がほしい。この石室も中
 間に仕切りをしたような感じである。
 新高山城に向かう。ゆくり、番所
 跡、匠心寺跡、二ノ丸跡、本丸跡と
 辿り、山頂に着く。山頂は石鎚権現
 の結果所となつていゝ。ここには天
 守があつたとされていゝ。ここには
 崩れてしまひ、今は見る影も無く存
 つていゝ。

本丸で全員が昼食をとつた。南方
 は視界が開けるが、北方は木々に遮

(6) 備陽史探訪12号

られてあまりよく見えない。本丸原湾へ向けて流れ、山間に消えて行
の北側に井戸郭が有り、その境に沼田川との風景は、又格別の物であ
大手門跡がある。門は廢城の時、た。高山城を降りてバスに帰った
三原市の宗光寺に移築され、今も時は、皆グッタリで、木山寺に行く
山門として現在する。なかなかな立予定を、時間の都合もあって中止し
派な門で、これだけの門が山頂に一路福山へ。
あった事から、盛時の高山城の姿
が偲ばれる。

井戸郭のあたりは雑草がとてモ
りどくて、上段に四基、下段に二
基の井戸があるはずなのに、三基
と一基づつしか見られなかった。
井戸の幾つかには、転落防止の柵
がしてあった。全部にすればよい
のに。
二ノ丸、三ノ丸の順で下り、匡
心寺に降りる。ここに池と庭園が
あったらしく、今も痕跡を見る事
ができる。池を再現すれば、風流
この上ないが、それでは観光地化
し過ぎたろう。
匡心寺跡から見下した本郷の
街並みと、高山城の麓から遠く三

梅木平古墳の登り口には、立派な
真新しい石碑が立っていた。そんな
金があれば、石室内の照明や、古墳
の補強に使えばよいのと思ふ。
今後とも例会が成功する事を祈る。

時、トイレの無い事が多く、今回も
モーターのトイレを借りたりした。
今後とも気をつけて行きたい。又雑草
が茂って歩行が困難を極める事があ
る。事前に下見をした際、草を刈っ
ておいたので事無きを得たが、注意
したい事である。

覆面潜入撃ルポへ例会寸評

「潜入ルポ」はその山口哲晶の巻
 う声か圧倒的に約一名程あつたの
 で、今回から突撃の一語を入れて
 みたが、どうも大阪スポーツの真
 中あたりの頁の見出しの様で若干
 ヒワイな響きがしないでもない。
 しかし大阪スポーツは推名誠もホ
 メてある様に根性のある新聞であ
 るから引き合いに出すのはやめよ
 う。とにかく実体的に核心に触れ
 んとするココロである。
 ・山口君と言えは知らない人もい
 る。だるうが細身のジーンズにサニ
 グラス(そして福助の足袋!)とい
 コントが昔あつたよな)カセット
 テレコにヘッドホーン、そして極
 めつきに生口ワ用の集音器という
 彼の第一種重装備は誰しも一度く
 らい見ているのではあるまいか。

これらの小道具とあとは顔に憂愁の
 翳あればこれはもう圧倒的にマスコ
 ミ関係の人だと思つてしまふのだか
 實はこれか御医者屋さんだ。たりす
 るから世の中わからぬのだ。さら
 にかからぬのはこの様にメカで
 武装した人の心が意外に靈魂の存在
 など信じちやうとることなのだ。山
 口さんとは時々一緒に飲むが彼はあ
 さりバタリなど食いなから「世の中
 には科学で説明できないう事、多
 んですよ。ね。説明できないう事、多
 者の私を激しく怒らせるのであつた。
 山口さん、世の中には確かに科学で
 説明できぬものがある。例えば私や



君の様な素敵な男が婚期を逸して
いさよといふのもその一つだ。でも
これは不思議がっているのは当人の
だけで、まわりの人達にはその原
因が皆解っちゃってるかもしれな
いのだ。それと同じ様にへかどう
か知らないけど、私らが必要とす
るのは人が信仰に向う心性の解明
であり、決して宗教する心ではな
い。一夕し振りに真面目なことを
言ったので才干かつかなくなっ
てしまつた。今気が付いたんだ。落
ち着くって言葉はここから来たん
です。ね。逆かな？とさして重要で
もないことを口走りつゝ話題を交
える。

山口さんはあれで仲々詩人であ
る。この前電話した時山陰へ行く
と言ふから何しに行くのと聞くと
日本海の波の音を聞きに、と宣わ
れた。私などこんな台詞気恥しく
てとて吐けない。詩人とはか
り図太い神経を持ち合わせた人種

であるらしい。また詩人であり続け
るためにはたいふお金がかかるらし
い事も良く解った。

会員近況

かねてより鬱病が心配されていた
粟田東国氏は、さる6月19日山城調
査に向う途中感心にも岡山県警交通
課に一万円も寄付をしてしまつた。
これかために、ようやく立ち直りを
見せていた同氏の病状はまた元の深
みに落ちこんでしまつたと言ふ。

※ ※ ※ ※

古墳研究部会の活動について

佐藤一夫

七月から古墳研究部会を左記の要
領で行ないます。

備南の地域は古墳が多く、古代を
考える上で非常に面白い地域です。
畿内の天皇を中心とする古代国家が
成立する以前、吉備、筑紫、出雲、
越、尾張、毛野など畿内と並ぶ地域

がありました。これらの地域を畿内勢力がとり込む過程そのものが古墳時代の実態です。

とくに吉備は畿内に次ぐ勢力であり、ある時点においては畿内を凌駕する地域です。吉備がどのように畿内にとり込まれていくかを備後を中心にみていきたいと思えます。吉備の西辺に位置する備後の吉備への従属性、独自性を考えてみたいと思います。

まず、①稲作導入から大宝律令制定までの歴史の流れを学習する。②古墳そのものについて学習、③実地に古墳を研究、の三段階を考えています。

要項

○ 毎月第二、第四水曜 午後七時

九時

○ 青年の家 和室

○ 若干の資料代を徴収

○ 冊子の発行
○ 古墳に興味をもつ研究熱心な方大歓迎

以上で行ないます。第一回は七月十三日水曜午後七時より青年の家和室です。テーマは「稲作文化の導入」

へQ & Aコーナー



問 福山城天主閣北面の鉄の覆いは何時頃からあったのですか。

神辺町 加藤惣一氏

答

福山城博物館に問い合せた所、明記された史料が無いので、不明である。ただ敵追城、鉄覆城等の異名が古くから見えるので、創建当初からあったのでは無いでしょう。との解答を戴きました。

係では歴史に関する質問を
お待ちしています。



投稿、投書コーナー

七月例会の昼食の件について

匿名氏

聞く所によると七月例会の時、
昼食弁当を会にて用意されるそう
ですが、本当ですか。

私は四月例会から参加させてい
ただいていますか、お子様連れの方
が手製のお弁当を楽しもうに食
べられていた光景を、いつもほほ
えましく、ほのぼのとした気持ちで
見てあります。一律に上から弁当
を押し付けるのはいかがなもの
でしょうか。何故そのように決めら
れたのか、お教え下さい。

お答えします。会で弁当を準備
する事にしたのは、季節の問題と

雨天の場合食事をする適当な所も無
い事によります。七月例会は梅雨の
時期にあり、ムシ暑いバスに半日弁
当を置く事になり、食中毒の心配が
あります。又下見をした限りでは、
雨天の時四十名近くが雨を避けて食
事をできる快適な場所を見つけた事
はできませんでした。狭く、暑苦し
いバスの中で食事をとったのでは、
疲れもとれないと思います。

以上の事は、例会の担当者達で話
し合って決めた事でした。弁当の件に
ついて、説明の足りなかつた点をあ
詫びします。

同氏からは、十月の旅行について
も、一般からも公募するのには賛成
しかねる旨の、御意見も戴きました。
未だ検討中であり、参考にさせて戴
いた上で、旅行案内の形で近くお答
えしたいと考えてあります。

貴重なご意見、有難うございまし
た。

私の研究テーマ

種本実

当会の例会、談話会もすくなく
定着しました。私も都合のつく限
り出席して、会員の方々と顔を合
わす事が、大きな喜びとなりまし
た。これも会の運営に携わってい
ただいて、いる方々の御尽力の賜
物と深く感謝しております。

例会、談話会の後、私自身が常
に感じる事は、何時までも今の様
に、ただ出席して歴史を聴くだけ
で良いのだろうか。矢張何かテ
マを求めて、自分の研究を持つべ
きではないかと言う事です。
とは言え、古文書等を見ても猫
に小判で、たいした研究はできま
せん。そこで自分に関心がある、
身近なテーマを考えた結果、次の
様存事項を研究しようと思いまし
た。

一、町の歴史、町名の由来

- 二、神社、寺院、石仏の歴史由来。
- 三、伝統行事、祭りの歴史由来。
- 四、郷土の言い伝え、名産物、方言の歴史、由来。
- 五、その他郷土にまつわる古老の

話

できれば会員の有志で「ふるさと研
究部会」といった物を設立し、協力し
て研究を進めようと思っております。
関心のある方は御連絡下さい。
後一ヶ月もすれば、各地で盆踊り
大会が催される事でしょう。若いも
若きも、古来より伝わる盆踊りを楽
しみ、さらに未来の世代に受け継が
れ、行きます。先祖の香りが漂う、
盆踊りについての研究も、今夏のテ
ーマとしています。
以上、私の今後の研究テーマにつ
いて述べてみました。

会員の皆様へーお知らせコーナー

◎ 行事予定

① 第八回歴史談話会

七月十日(日)、午後二時より、福山城湯殿で行ないます。

山上久夫氏(郷土史家・現福山城博物館々長)により、「宮座について

ー山手、木之庄の宮座を中心トー」という題で、講演して戴きます。

会費は資料代として、会員百円、非会員は二百円を申し受けます。

② 七月例会

七月二十四日(日)に、阿部厚子氏の

案内で、矢掛本陣と、真備町の史跡を訪ねます。前述のよ

うに、昼食は会で用意します。吉備の味とこころ、竹の子で、吉備

路弁当(暮の内)

マイクロバスで行きますので、参加御希望の方は七月十日

日までに、会長宅まで電話か

費書でお申し込み下さい。当日受付は致しません。参加費は令当代込みで、三千円です。

午前八時に駅裏のキャッスルホテル前に集合して下さい。八時二十分には出発します。

ー編集後記ー

雨の少ない今年の梅雨です。当会は毎月の例会、談話会を確実に行ない、会員も七十四人となり、滞りなく58年前半を終えました。より充実した活動を、下半期に行なうて行きたいと思えます。

本誌は三人の編集委員が順に清書してあり、本号は私吉田が書きました。読みづらさを御容赦下さい。印刷は会長と七森氏を煩らわせました。

投稿、質問、投書等お待ちします。編集長種本までお送り下さい。

(一九八三・七・五)